◇ (あいさつ)

会長 静岡市立川原小学校 寺尾 祥訓

1 静岡県言語·聴覚·発達障害教育研究会内容

2

1

3

3 分科会発表資料

2 講演内容

(1) 構音障害

【第1回】「やってみよう!とする子を目指して

~個の実態に合った手作り教材での指導 正しい発音に向けて~」

提案者 富士市立田子浦幼稚園 井出 悠梨恵 4

【第3回】「意欲的に取り組める構音指導をめざして~寄り添いながら こつこつと~ 」

提案者 浜松市立蒲小学校(元気賀小学校) 市川 賀代子 9

(2) 言語発達遅滞

【第1回】「言語発達遅滞の子のための教材」

提案者 磐田市立磐田中部小学校 幼児ことばの教室 大庭 真世 田村 牧子 20 【第3回】「いっしょにさがそう やる気スイッチ」

提案者 静岡市立清水袖師小学校 幼児言語教室 瀧 薫子 瀧 香織 望月たえ子 25

(3) 吃音

【第1回】「地域の吃音者に対し、ことばの教室が果たす役割について」

提案者 掛川市立大坂小学校 鈴木 俊彦 30

【第3回】「吃音のある子の吃音理解と自己理解」

提案者 沼津市立第二小学校 山越美希 34

(4) LD等

【第1回】「適切な関わりをもてる子の育成を目指した指導の実践 」

提案者 島田市立島田第四小学校 吉永健夫 39

【第3回】「通級指導教室における運動の有効性」

提案者 沼津市立第四小学校 松本 研 45

- ※ 難聴は第1回に、思春期は第3回に Zoomによる情報交換を実施
- 3 各地区ブロック研修報告

50

東部地区

中部地区

西部地区

あいさつ

静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会 会長 寺 尾 祥 訓 (静岡市立川原小学校長)

本年度も新型コロナウイルス感染対策と研修効果のバランスの中で研究活動が行われました。With コロナの研究活動に、会員の皆様のご負担も大きかったことと思います。

しかし、皆様のご尽力により、学びの歩みを止めることなく研究活動を推進することができました。特に、第2回定例研修会と兼ねて開催した第50回東海四県言語・聴覚・発達障害児教育研究大会静岡大会は、「動画配信」という、研究大会としては新たな取組の中で、参加者同士の実践を共有する「つながり」が生まれ、他県から高い評価を受けました。重ねてお礼申し上げます。

通級指導教室の設置については、各地区において新設・増設がありました。このことは、通級指導に対する高いニーズがあることの証です。加えて、通級指導教室の担当者が加配措置から定数化に移行していることも要因の一つと考えます。

この状況を好機と捉え、「共生社会の構築」を推進していくために通級指導教室の一層の充実を図る必要があります。そのため、昨年度同様に以下の3点を提案いたします。

(1) 定数化を見据えた方策

定数化完結後には定数による教員配置が行われるので、まずは担当者が 1 名の教室であっても設置することに重点を置く。

(2) 通級指導教室の障害種別の緩和

本県の通級指導教室は、障害種ごとの設置が難しい小規模な自治体の実情や遠距離通級解消のため、複数の障害種を合わせた教室の設置を進める。

(3) 市町ごとの要望活動

市町の教委の権限に係る課題については、各市町での要望活動を行うことが必要である。

この提案を参考に県全体が団結し、案件によっては市町ごとに通級指導教室の 一層の充実を図っていただけたら幸いです。

最後になりましたが、皆様の本会活動についての献身的なご尽力に感謝申し上げると共に皆様のご健康を祈念いたしまして、あいさつとさせていただきます。

令和4年度 静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会 内容

1 定例研修会

(1)第1回定例研修会

講演:Zoomによるオンラインでの配信

分科会: YouTube での動画配信

(2) 第2回定例研修会(第50回東海四県言語・聴覚・発達障害児教育研究大会 静岡大会)

講演、分科会: YouTube での動画配信

(3)第3回定例研修会

講演:Zoomによるオンラインでの配信

分科会: YouTube での動画配信

2 新任者研修会

各地区の状況に合わせて実施。 詳細は各地区研修報告参照

3 県内各地区での研修会

少人数での実施、オンラインでの開催など各地区の状況に合わせて実施。 詳細は各地区研修報告参照

- 4 研究会誌作成
- 5 会報発行

静岡県言語・聴覚・発達教育研究会ホームページに掲載

令和4年度 講演会 いずれもオンラインでの講演となった。

【第1回】 Zoom によるオンライン視聴

演題 「発達障害と児童虐待」

講師 山村淳一先生

天竜病院 児童精神科部長 子どものこころのケアセンター長

天竜病院で診療をしている中で、今の子供たちの困り感についてのお話、また、天竜病院の取り組みについてお話をしてくださった。子どものこころのケアセンターについても説明していただけ、新しい情報を得ることができた。

【第2回】 YouTube による動画配信

演題 「かかわりへの新しい一歩~愛着障害への支援を視座にして~」

講師 米澤好史 氏

和歌山大学教育学部教授

愛着障害をもつ子供たちとそうでない子供たちはどのような点で違いがあるのか、また、愛着障害をもつ子供たちへのアプローチの仕方などを教えていただくことができた。

【第3回】 Zoom によるオンライン視聴

演題 「発達障害の理解と支援」

講師 吉川 徹 氏

愛知県医療療育総合センター中央病院 子どものこころ科(児童精神科) あいち発達障害者支援センター副センター長

発達障害の子をどのようにとらえたらよいかを、分かりやすく教えていただくことができた。また、支援についても詳しく話をしてくださった。



東部地区講習会報告

1 第1回東部地区講習会(初任者講習会)

- ①日 時 令和4年4月26日(木) 13:30~16:00
- ②会場 Zoomによるオンライン会議
- ③内 容
 - ・基礎講座:「通級指導教室と静言研について」
 - 事例研修:「やってみよう!とする子を目指して

~個の実態に合った手作り教材での指導 正しい発音に向けて~」 富士市立田子浦幼稚園 井出悠梨恵先生

- 教室種別懇談会:幼児ことば・学齢ことば・小学校発達・中学校発達・難聴
- 4)講習会内容、感想

当初は対面での研修会を予定していたが、オンラインでの開催に変更して、地区講習 会を行った。

- ・井出先生の事例発表では、子どもの心に寄り添った指導とその成果が発表され、大変参考になった。「一人一人の子どもの実態を把握し、それぞれに合ったアプローチで指導を進めているところが素晴らしい」「子どもの興味を生かして指導に繋げる大切さを感じた」等の感想が出された。
- ・教室種別懇談会では、オンラインを生かし、教室ごとのメンバー紹介や、教室施設紹介、 教室で使っている教材・教具の紹介等を行った。オンラインではあったが、担当者同士 の情報交換の機会となり、互いにつながりをもてたことは大変有意義であった。

2 第2回東部地区講習会

- ①日 時 令和4年6月15日(水) 13:15~16:30
- ②会場 Zoomによるオンライン視聴
- ③内 容 演 題 「学びの苦手さの背景とサポート

~学習に困難を抱えた児童・生徒へのアプローチ~ |

講 師 公認心理師 臨床心理士 澳塩 渚 氏

4講演内容、感想

講演では、学習に困難を抱えた児童・生徒のアプローチを行う上で、知っておく必要のある脳機能のモデルや学習、情報処理に関する考え方について説明があった。その後、具体的な事例を通して、対象児の問題行動の背景をどのように捉えたらよいのか、また、具体的にどんな支援方法があるのかなどについて講話を頂いた。有意義な研修になり、参加者からは、「もっと渙塩先生から学びたい」という声が多く、大変好評であった。

3 第3回東部地区講習会

- ①日 時 令和4年9月9日(金)
- ②会場 Zoomによるオンライン視聴
- ③内 容 演 題 「対応の難しいお子さんの理解と支援」

講 師 静岡県立吉原林間学園 治療指導課 穐山 佳子先生

4)講演内容、感想

子どもの行動の背景にあるものを見立てて理解し、改善のために、信頼できる他者になるための関係を作りながら適切な支援をし、成長を見守ることなど、対応の難しいお子さんへの理解と支援について学んだ。

- 信頼関係を築くことの大切さ、困った行動の背景を探ることの必要性を改めて感じた。
- ・魔法の一言や手立てを求めがちだが、時間と手間暇かけることが必要、ということばの 重要性を改めて感じた。
- ・昨年のお話もとても参考になったが、より具体的な言葉がけや対処の仕方などの支援 の方法を学ぶことができた。

4 第4回東部地区講習会(検査技能講習会)

- ① 日 時 令和4年10月7日(金) 14:00~16:30
- ② 会 場 富士市教育プラザ大会議室 (対面及びZoomによるオンライン視聴のハイブリッド方式)
- ③ 内 容 演 題「 日々の支援に生かす WISC-IVの活用」 講 師 特別支援教育センター 心理判定員 二村伊公子先生
- 4 講演内容、感想
 - ·WISC-IVを行う意義、FSIQと4つの指標(VCI、PRI、WMI、PSI)の意味
 - 困り感の背景を、認知傾向から読み解いて支援につなげる事例検討





- 二村先生の講話はわかりやすく、実際に考えながら取り組むことができた。
- 事例に基づいて、検査結果や困り感を読み解くことができ、とても勉強になった。
- ・検査結果を十分に読み取ることで、今後、学校で発達支援の質を高めていきたい。

5 東部地区担当者講習会 I 「LD のある子への支援を学ぶ会」

- ①日 時 令和4年11月17日(木) 13:30~16:00
- ②会場 Zoomによるオンライン視聴
- ③内 容 演 題「学習障害のある児童生徒の理解と支援について」 講 師 横浜国立大学 教育学部 准教授 後藤隆章 氏
- 4)講演内容、感想

ICF や情報処理モデル等に基づいた発達性読み書き障害の理解、アセスメント、読み書き支援の具体例についてのお話を伺った。

- ・後藤先生の『教育の目的は人格の形成』、『小学校 1 年生の夏休みの終わりでつまずきがあれば、即介入』、『"どうせやっても無駄"という子供の思いを、"挑戦したい"という思いに育てることで学力を保障』等々の言葉に大変感銘を受けた。
- ・子供の思いと個別最適な学び方を把握し、根気強く指導していきたい。また、学級担任に対して、在籍学級での配慮や指導についての理解と協力を、引き続き働きかけていこうと思った。
- ・先生の元を巣立った教え子たちのその後の姿から、希望と意欲をいただいた。
- ・オンラインでの開催により、西部地区担当者の参加もあり、好評であった。

6 東部地区担当者講習会Ⅱ「言語指導を学ぶ会」

- ①日 時 第1回 令和4年11月22日(火) 14:30~16:00 第2回 令和4年12月19日(月) 14:30~16:00
- ②会場 Zoomによるオンライン視聴
- ③内 容 (1)発音のしくみ、構音検査について
 - (2)構音検査、構音訓練について

講 師 言語聴覚士 公認心理師 大庭絵美 氏

4)講演内容、感想

2回シリーズで、言語指導についての講演をしていただいた。言語指導についての専門的な知識や技能を学ぶことができ、大変好評であった。

- ・1回目は、言語聴覚士と公認心理師の役割、リハビリテーションとハビリテーション(子供が受ける訓練)の違い、ことばの3要素(発話、意味理解、コミュニケーション)、ことばのビルなど、言語指導の基礎知識についての講習であった。
- ・2回目は、指導の様子を動画で観ながら構音検査表に記録することを通して課題を見つける体験を行ったり、それぞれの課題に対してどのような指導をすればよいか具体例を数多く教えていただいたりした。
- ・経験の浅い担当者にとっては、子供の困り感のルーツが機能か器質か、同じように聞こえる音が声門破裂か子音の省略なのかなどの判断が難しく、研修の必要性を痛感した。
- ・子供が発音しにくそうな場面で、大庭先生は必ず温かい言葉がけをされていた。指導に必要な知識技能を身につけるとともに、子供を思う心を大事に指導していきたいと思った。

7 第5回東部地区講習会

- ①日 時 令和5年2月3日(金) 15:00~16:00
- ②会場 Zoomによるオンライン会議
- ③内 容
 - •副会長挨拶
 - •運営委員会等報告
 - ・令和4年度活動の反省・意見交換
 - ・来年度の研修計画について
 - ・今年度新任担当者等の振り返り・感想
 - •その他

中部地区講習会報告(静岡地区)

1 第1回静岡市新任者講習会

- ① 日 時 令和4年4月22日(金)9:15~16:00
- ② 場 所 静岡市特別支援教育センター 1階 大会議室 3F 研修室
- ③ 研修内容

「静言研について」

静岡市立番町小学校 青木 教美 先生

「レッツビギン!~新任者にエール~」

掛川市立中央小学校 藤田 順子 先生

分科会1「構音障害 基礎・基本」(言語)

静岡県立こども病院 鈴木 藍 先生

分科会2「LD等通級指導で大切なこと」(発達)

掛川市立中央小学校 藤田 順子 先生

4) 研修報告

静言研の発足の経緯、理念、および活動についての講話、および通級指導教室の担当者と しての心構えや保護者や在籍校との連携の大切さについて学ぶことができた。

分科会1では、構音障害の基礎として、構音の仕組みや口腔内の様子、構音障害のタイプ、 評価と訓練で重要なポイント等を、演習を交えて学ぶことができた。

分科会2では、ワーキングメモリーや応用行動分析についての講義の他、子どもを観察すると きに重要なポイントを遊びや書籍の紹介をもとに、具体的に学ぶことができた。

2 第2回静岡市新任者講習会

- ① 日 時 令和4年6月17日(金)13:30~16:00
- ② 場 所 静岡市特別支援教育センター 1階 大会議室
- ③ 研修内容「構音指導の実際」

静岡県立こども病院言語聴覚士 鈴木 藍 先生

④ 研修報告

前半は、第1回の復習で、口腔内の名称や構造、構音の発達、構音指導開始の条件、検査の仕方等を、演習を交えて学ぶことができた。後半は、サ行音やハ・パ行音、タ行音、カ・ガ行音、ラ行音の具体的な指導方法と音の般化に向けての指導の進め方を学ぶことができた。また、受講者からの事前の質問や、実際に受講者が指導をしている動画を用いて事例検討し、今後の指導の方向性について助言をいただくことができた。講義と事例検討を通して、構音指導の評価と訓練の重要なポイントを理解することができた。

- 3 中部地区担当者講習会
- ① 日 時 令和4年6月13日(月) 10:00~12:00
- ② 場 所 静岡市特別支援教育センター 1階 大会議室
- ③ 研修内容「幼児の育ちと姿勢保持」

静岡大学教授 香野 毅 氏

4) 研修報告

冒頭 30 分程、「静岡市公私立こども園・保育園障害児巡回指導」の話があった。時間、人数、進め方、対象の子どものタイプ等。さらに、参観の観点、保護者との面談前に、"ライブな感触"を得るために子どもと遊ぶこと等。近づいた時の反応から子を知り、発達の遅れや偏りを視点にしつつ虐待を見逃さないという意識は必須。

続いて姿勢保持について。「行動」「情動」「認知」「身体」は関わり合っている。姿勢は外との 関係によるものであり、適応行動である。身体感覚、密着するワークは、今だからこそやって いきたい。8つのリラクゼーション練習、姿勢保持練習の紹介があり、一緒に体験した。

4 中部地区担当者講習会

- ① 日 時 令和4年7月5日(火) 14:00~16:00
- ② 場 所 静岡市地域福祉共生センター「みなくる」
- ③ 研修内容 「吃音のある子どもに対する実践的アプローチ」

つばさ吃音相談室 代表 羽佐田 竜二 氏

④ 研修報告

今回は、受講対象を指導者に絞り、対面形式での講演会とした。吃音症状の軽減や治療について様々な考えがある中、環境調整法としてつばさ吃音相談室で羽佐田氏が行っていらっしゃる指導についてご講演いただいた。中でもオンラインセミナー「リハノメ」で紹介されているペーシングボードは参加者も関心が高く、講演会後のアンケートに「検索してみたい」との感想が多く見られた。羽佐田氏自身が学生時代に吃音によって悔しい思いをしたことや、今でも多くの練習をしていること、緊張下に身を置いた練習の必要性など、具体的な話に引き込まれた。また、七夕の短冊やクリスマスに「おくちがなおりますように」「皆と同じようにしゃべれるようになりたい」と願う子どもへの思いには胸が苦しくなり、数年前の吃音の集いで「100万円で吃音が治るとしたら 100 万円支払うか。」と問う保護者のことを思い出した。

指導者として吃音に悩む子どもや保護者にどう向き合うか、何を学びどう支援していくのかを 真剣に考えるきっかけになった。

- 5 中部地区担当者講習会
- ① 日 時 令和4年8月31日(水) 14:00~16:30
- ② 場 所 静岡市特別支援教育センター 1階 大会議室
- ③ 研修内容 「情報収集力」や「支援策を考える力」を高める ~インシデントプロセス法による事例検討会を通して~

焼津市役所こども相談センター発達支援担当 主査 森 亜矢子 氏

④ 研修報告

前半部分は、静岡市内の通級教員を対象に、「インシデントプロセス法による事例検討会の行い方」をご講演いただいた。後半部分は、ご講演いただいた内容をもとに、事例検討を 実際に行い、児童生徒や周りの人に対する支援方法等を考えることができた。

インシデントプロセス法は短い時間の中でも、多くの情報を事例提供者から引き出すことができ、校内の支援方法を考える時に有益な方法であるということが分かった。実施後のアンケートでは、大変満足、満足が100%となり、多くの先生方に有意義な講習となった。

- 6 中部地区検査技能講習会
- ① 日 時 令和4年9月10日(土) 13:30~16:00
- ② 場 所 静岡市地域福祉共生センター「みなくる」
- ③ 研修内容「学習障害をもつ児童生徒の理解と支援について」

横浜国立大学教育学部 准教授 後藤 隆章 氏

④ 研修報告

今年度は、定員を50名以下に設定し、対面での研修を実施した。参加者は37名で、中部地区以外の参加もあった。通常学級・支援学級の担任、特別支援教育コーディネーターなどの参加もあり、幅広い教育関係者の研修の機会となった。

講習会では様々な特性をもった子どもへの支援の事例を紹介していただき、子どもたちが「読めた・書けた」という実感をもって課題と向き合う意欲につなげていく支援について教えていただいた。また、RTIに基づく支援のアプローチの考え方や、ICTの活用の方法等も紹介していただき、参加者にとっても大変学びの多い時間となった。実施後のアンケートでも、「大変よかった・よかった」という回答が 100%であったことから、参加者に多くの学びのある会になったと考える。

中部地区講習会報告(志太·榛原地区)

- 1 志太·榛原地区新任者研修会
 - ① 日 時 令和 4 年 5 月 11 日(水) 8 時 30 分~11 時 30 分
 - ② 場 所 島田市立島田第四小学校
 - ③ 参加者 志太·榛原地区通級指導教室3年未満の担当者 26名
 - ④ 研修内容

・講話 「通級指導担当者として」

いずみの教室 深井 美明

• 実践発表

「言語発達遅滞児への指導」

幼児ことばの教室 暮林 洋子

「サ行音の構音指導」

学齢ことばの教室 原川 浩子

「ゲームをしよう~ワンバウンドゴールゲーム」いずみの教室 小泉 智幸 山本 有子

- ・通級指導教室の施設参観・教材紹介
- グループ協議
 - ・言語通級指導教室担当者 1F ことばホール (幼児+学齢)
 - ・発達通級指導教室担当者 2F いずみホール (小学校+中学校)

⑤ 研修の様子







⑥ 参加者の感想

- ・コロナの中、他の方が指導しているところを見る機会がほとんどなく、1年間いろいろと試し試しでした。暮林先生と子どもさんとのやりとりを聞き、丁寧なことばを返していくことで、正しい発音や語彙を獲得していくのだと実感しました。(幼児ことば)
- ・初めてのことばの教室で、前任の先生やまわりの先生に聞きながら指導を行っていました。本日、授業を参観させていただいて、イメージがわいてきました。特に構音の指導はどうすればいいのか不安でしたが、すごろくをやったり、耳トレーニングをやったり、いろいろと実践していきたいと思いました。とても勉強になりました。(学齢ことば)
- ・本校は個別でワークシート中心の指導です。このようなグループでゲームをやって学ばせるという指導方法があることを知ることができて、大変勉強になりました。(学齢発達)
- ・同じような悩みを抱えている先生方と話ができたことも、とても有意義なことだったと思います。まだまだわからないことだらけですが、今後も勉強していきたいなと前向きな気持ちになれました。(学齢発達)

- 2 第1回 志太·榛原地区通級指導教室担当者講習会
 - ① 日 時 令和4年6月29日(水) 13時00分~16時20分
 - ② 場 所 焼津市立小川小学校
 - ③ 参加者 志太·榛原地区通級指導教室担当者 47名
 - 4) 内容
 - ・講話 「愛着障害 ~親子関係の変化~」 発達支援教室じゃんけんぽん 夏目徹也 氏
 - グループ協議

(幼児)入級条件や小学校への引き継ぎなどについて (学齢)年間計画と学習形態、指導記録などについて

⑤ 研修の様子





昨年度まで、焼津市立焼津南小学校の発達通級 指導教室の担当をされていた夏目先生に講話を していただきました。通級児童の中には発達障害 と愛着障害の両方が複雑に絡み合ったようなあら われのある児童がおり、彼らへの対応について知 ることができました。

各学校の年間計画や各教室の指導カードを持ち寄り、グループで情報交換しました。教室ごとの運営の違いや、市町ごとの違いを知り、各校の教室運営を改善する際の参考になる情報を得ることができました。

⑥ 参加者の感想

- ・通級には本当にいろいろなあらわれをする子や家庭環境を抱えた子がいて、夏目先生のお話を聞きながら受け持ちの子供たちの姿を思い浮かべた。(学齢発達)
- ・通級は安全で安心なところであるべきという言葉が心に残った。子供たちの「安全基地」となれるよう子供の心を支えたいと思った。(学齢言語)
- ・各市町村の現状が違いすぎて驚いた。一定である必要はないが、揃えたいことも多い。(学齢発達)
- ・多少の違いはあるものの、大まかな流れは違いが少なく、自分がやってきた指導が"へん"ではなかったことが分かり安心した。(学齢発達)
- ・中学校3教室で教室を見合う会ができるとよい。(中学校)
- ・各教室とも環境が違ったが、取り入れられるところは持ち帰って相談したい。(幼児ことば)
- 3 第2回 志太·榛原地区通級指導教室担当者講習会

①日時 令和 4 年 11 月 25 日(金) 13 時 00 分~16 時 15 分

②場所 藤枝市立岡部小学校

③参加者 志太·榛原地区通級指導教室担当者 43 名

4研修内容

・講話 「特別支援教育と発達障害のある子どもの支援」

静岡県中西部発達障害者支援センター「COCO」所長 櫻井郁也 氏

・グループワーク「各教室の現状と連携について」

⑤研修の様子

全体会の 様子



事例などを交えて、支援 についての講演をしてく ださいました。



グループワークで は、連携をテーマ に話しました。





幼児・学齢、 ことば・発達… ばらばらのグループで 構成しています。

⑥参加者の感想

- ・特別支援の知識や方法ではなく、支援が必要な子や保護者に対して私たちがどんな気持ちで取りみ、向き合っていったらいいかという大きな所を教えていただいたと思います。(幼児ことば)
- ・通級担当、特別支援教育に関わる者として、どんなことができるのか、改めて考えさせられました。環境因(背景となっている可能性)との関係性から、しっかりとその子の発達のでこぼこを理解、分析することの重要性、「わかる」「安心できる」環境での学びの成立もふくめ関わる大人がしっかりと調整してあげなければと思いました。子どものニーズに応じた支援ができるようになれたら良いと感じています。「発達障害者支援センター」という連携先について知ることができて有意義でした。(学齢ことば)
- ・通級後の子ども支援に不安を感じている保護者の方がいるので支援センターの話、連携の話が参考になりました。「子どもの頑張れていないことは、我々が頑張れていない」という言葉は通級担当者として覚えておきたいと思いました。 (学齢発達)
- ・普段、講習会や研修会など他の方と学習する機会が少ないので、今日の講習会はとても有意義でした。櫻井先生の「点で支援するんじゃなくて、線で支援するんだ」というお話を聞いて、様々な関係機関に助けを求めていけるように本校でも支援の輪を広げていけたらと思いました。 (学齢発達)

中部地区講習会報告(小笠地区)

- 1 第1回地区担当者講習会
- ① 日時 令和4年5月12日(木)13:30~16:30
- ② 会場 小笠教育会館
- ③ 研修内容
 - ・今年度の研修について(組織、年間計画)
 - •学級•教室紹介
 - ・グループ協議(言語・発達・幼児)
- 4 感想
 - ・各教室の実践紹介とそれに対する感想、質問と回答をざっくばらんに行うことでお互いの学びになった。

2 第2回地区担当者講習会

- ① 日時 令和4年12月3日(土)13:15~15:15
- ② 中央小を会場にしてのオンラインでの視聴
- ③ 演題「応用行動分析を基礎から学ぼう」 講師 常葉大学講師 野村和代氏
- ④ 講演内容、感想
 - ・応用行動分析の考え方 ・実際の事例を用いて
 - ・応用行動分析を知らない人のために、わかりやすい言葉でお話していただいたので、子どものあらわれを見る新たな視点をだれもが学ぶことができた。
- 3 第3回地区担当者講習会
- ① 日時 令和4年12月16日(金)10:30~16:30
- ② 場所 小笠教育会館
- ③ 演題 「構音障害とその指導」「言語発達遅滞と発達障害」講師 言語聴覚士 石間志津代氏
- ④ 講演内容、感想
 - ・昨年度に引き続いての構音指導(促音化構音など)
 - 具体例をあげながら限局性学習症や特異的言語発達障害などにもふれてくださった
 - ・異常構音の詳しい説明と用具を用いた指導の実際が大変わかりやすく、明日から指導にすぐに活かしたくなった。「言語発達遅滞」が曖昧でいるが、少しはっきりしてきた。
 - ・子どもと保護者の両方に安心できる場を与えること、それぞれの発達に合わせた教材 の工夫、小さな成長を見取ることの大切さを教えていただいた。
- 4 幼児担当者講習会
 - ① 日時 令和4年12月26日(月)9:00~12:00
 - ② 会場 大東幼児ことばの教室
- ③ 研修内容
 - ・事例検討(実際の指導・保護者対応など)
 - ・先輩指導者からの指導・助言
- 4 感想
 - ・実際の事例を用いていつも思っていることや悩んでいることをたくさん出し合うことができた。それについて先輩指導者から適切な助言をもらえたのでとてもためになった。



西部地区講習会報告 担当者講習会 (兼新任者研)

令和4年4月23日(金)

- O Youtubeを利用した動画配信
- 〇 内容・「副会長挨拶」「静言研についての説明」
 - 「今年度研修計画等の説明」
 - 講話「通級指導の基礎・基本」講師 浜松市立双葉小学校 杉本先生



〇 感想

コロナウイルス感染症の状況をみて、急遽、動画配信によるオンラインの実施と変更いたしました。ライブ配信は、視聴側の IT 環境に大きく依存してしまうため、すでに広く普及している Youtube での動画配信という形をとりました。初めての試みだったため、動画編集・動画のアップロード等時間がかかってしまい、動画の配信が遅れてしまいました。

動画配信になったため、例年行っていた「新任者紹介」「教室紹介」などの内容は省かせていただきましたが、特に問題はなかったように感じました。

今後も省いてもよいのではないかと思います。その分、講話等に時間をとっていくとよいと思います。

講話については、言語通級・LD 通級等の双方にまたがるお話を、双葉小の杉本先生にお願いしました。言語だけでなく発達障害全般について、初心者にもたいへん分かりやすく、基礎のところを説明してくださいました。



構音指導を学ぶ会(全2回)

第 1 回 令和 3 年 5 月 29 日(土) 第 2 回 令和 3 年 7 月 3 日(土)

2回とも9:30~11:30

会場 浜松市教育センター

- 〇 内容 講話 「構音指導を学ぶ会」
- 〇 講師 浜松市立北浜小学校 白井 有希乃先生

〇 研修内容

第1回 構音の発達と、構音指導のための専門用語

第2回 構音障害とサ行音の発音指導の実際



〇感想

コロナの状況をみて、3 回予定していましたが、緊急事態宣言が発令されたため、今年度も 2 回になってしまいました。構音障害、用語や検査方法について、また、実際の指導の仕方について、初任の先生方にも分かるように説明してくださいました。また、工夫された教材も御紹介いただきました。構音指導については、医療的なこと、専門的なことがたくさんあります。 今後このような講座を引き続き行い、教師のスキルアップをしていく必要があると思います。

西部地区担当者講習会

動画公開 令和3年6月19日(土)~7月31日(日)

- 内容 「読み書きが苦手な子どもたちのICT活用について」
- O 講師 さくら眼科 I C T コーディネーター 櫻井 望 先生
- 〇 研修内容

はじめに、体験を通して読み書きの苦手さについて実感することができた。そのうえで、iPad のアプリや、Chrombook の機能などを具体的に紹介していただき、「読み」「書き」「計算」などの支援方法を学ぶことができた。残念ながら対面の形で行うことはできなかったが、大変わかりやすい動画でたくさんの支援方法を紹介していただき、とても参考になった。また、学校現場や大学入学共通テストでの合理的配慮の例も教えていただくことができた。

〇 感想

「目的が達成できれば方法は違ってもいい。学びを支える一つのツールとして iPad がある。」と言う言葉が印象的だった。

ICT と聞くと興味はあるけれど「理解しづらそう、操作が大変というイメージ」が先行してしまうが、細かく伝えてくださり、活用していけるとよいと思った。

読み書きが苦手な子たちが、ICT を活用することで少しでも自己肯定感を保って社会に出て 生活していってほしい。身近にLDの子を見ているので、切実にそう思った。またさくら眼科の ようにLDの子に特化して支援してくれる場が他にもあるとよいと思った。

西部地区検査技能講習会

令和3年7月10日(土)9:30~11:30

内容 講演 「WISCを支援に生かすには」

講師 磐田市発達支援センター「はあと」所長 猪原裕子 氏

〇 研修内容・感想

【猪原先生より】

子供の力には、体・情緒・社会性・知能・人格・集団適応など、様々な側面があり、子供を理解する(アセスメント)には、色々な軸で子供を捉えることが大切である。WISCはその中の極一部である。

WISCは発達理解と支援のためのツールであるが、全ての能力を

測ることができない、検査時のコンディションによって結果が変わる、言語・文化など育ってきた環境による影響があるなどの限界がある。WISCの解釈は、支援に生かすため、教員間での理解のためでなければならない。WISCの解釈は、信頼性と妥当性、相関関係と因果関係と交絡因子、主観と客観の区別などを理解した上で行われるべきである。

WISCには、4つの指標がある。

言語理解とは、「ことばで説明する力・一般的知識(社会的ルール)・抽象言語・概念形成・言い換える力」、知覚推理とは、「見て理解して考える力・見て構造を理解する力・概念形成・推理力・複数条件で考える力」、ワーキングメモリとは、「聞き取る力・聞いた内容を頭の中で整理する力・聞いた音を再生する力・一時的な記憶力」、処理速度とは、「書いたり見分けたりする速度・書き写す力・記号を見分ける力・複数条件で記号を見分ける力」である。WISC検査の結果だけでなく、本人との会話や日頃のテストやプリント、授業中の発言などを加味して本人の持っている力を考えることが大切であり、高い力を利用し、低い力を現状把握をしながらスモールステップで養う支援をすることが大切である。

【感想】

- ・WISC検査で測ることができるものは一部であることを知り、日々の様子など、様々な軸で子供を総合的に見ていくことの大切さを実感した。
- ・検査の数値のみで判断することが多かったが、あくまでも一つの視点として考えていくこ との重要性が分かった。
- ・専門的な話を聞くことで、学校での子供の見方や支援を見直す有意義な機会になった。自 分の支援が適切であったのか、再度見直していきたい。



- ※静岡県にコロナにおける緊急事態宣言が発令され、講演会を中止とした。講演会と同等の 講師の書籍を配付した。(当初予定していた内容:日本吃音臨床研究会会長 伊藤伸二先生 よる講話「吃音のある子の理解と対応」)
- 〇 配付資料 「スタタリング・ナウ」の毎月購読(言語通級) 「吃音と共に豊に生きる」(発達通級)
- 〇 感想

先生の『ひとりの人間としてその人に誠実に向き合い、精一杯関われば、何かが変わる。人間の変わる力を私は確信している。』『子どもの援助とは、弱い人間に(強い人間が)何かをしてあげるのではない。苦戦している子どもを腫れもののように扱い、傷つけないようにするのではなく、仮に傷ついたら、なぜ傷ついたか子どもと一緒に考える。』という言葉に感銘を受け、指導方法にばかりにこ



だわっていた自分を恥ずかしく思いました。通級指導教室担当者として、通級児が日常をどう暮らすのか、どう生きるのか、周囲との関わりの中でどうしたらより暮らしやすくできるのかなどの取り組みを行う必要があると思いました。

※この他にも多くの学校から感想が寄せられました。

西部地区担当者講習会(吃音)

令和3年10月4日(月)~29日(金)

○ 内容 USA ドキュメンタリー映画「マイ・ビューティフル・スタッター」 ※Vimeo による限定公開を期間内に各学校で視聴する。

【映画のあらすじ】(上映会パンフレットより)

"吃音を持つ5人の子供たちの、挑戦と成長を描く感動のストーリー。

吃音によって差別やいじめを経験してきた彼らが、吃音を持つ子供たちのための自助団体「SAY」で他の吃音児と出会う。そこには、自らの命を絶とうとした子供や、自分の殻に籠っている子、治療に失敗し疲れ果てている子、社会から沈黙を強いられ、「吃音を出してはいけない」という圧力に苦しむ子供たちが集まっていた。「吃音があっても大丈夫」という SAY の革新的な考えに触れたことで、異なる背景を持つ子供たちに驚くべき変化が起こる。



〇 感想など

映画の視聴ととに、本映画の字幕翻訳をされた奥村安莉沙氏の講話も視聴した。吃音 当事者として自身も過酷な経験をおもちの奥村氏は、この映画を通して吃音に苦しむ日 本の子どもたちにも「吃音があっても大丈夫」とのメッセージを送りたい、また、吃音 をもつ子供たちが上を向いて生きていくためには学校や社会の理解が不可欠であり、当 事者の苦しみを多くの人々に知ってほしいとの願いから日本での上映に奔走されてい る。

来年度、担当者研修会でも講話をお願いする予定である。

- 〇 内容「小・中学生の感情表現、感情表出の対処法」 講師 安住ゆう子先生(NPO法人フトゥーロ LD発達相談センターかながわ所長)
- 〇 研修内容・感想

まず、感情理解や表現における躓きにはどのようなものがあるのかを確認した後、感情の発達のプロセスとして大切な大人の関わりについてお話いただいた。

続いて、怒りをコントロールできない子どもの分類や、発達特性のあり子に起こりうる感情表出や理解の問題の背景について解説いただいた。整理・協調・反復といった意図的な学習を設定して、ソーシャルスキルトレーニングを行うことで、適切な表現方法の獲得への支援を行っていくことが大切であることがよく理解できた。



その後、指導者自身のソーシャルスキルを高めること、目標設定に関すること、怒りの仕組みに関すること、ワークシートやゲーム、ロールプレイなどの様々な指導例、感情表現が苦手であった児童の指導事例など、具体的な指導場面や教材などをたくさん交えてご紹介いただいた。

令和元年度の講習会では、幼児期における感情理解についてお話いただき、今回は小・中学生の感情理解についてお話を伺うことで、理解をより深めることができた。とても分かりやすく盛りだくさんのお話で、参加者からは、大変勉強になった、また先生のお話を聴ける機会をつくってほしいなどの感想、要望をいただくことができた。

編集後記

今年度は、新型コロナウイルスと共に生活をする、Withburn年だったと感じます。通級指導教室でも感染防止の対策をとる一方、コロナ禍以前の指導にどこまで戻れるのかを考えながら指導を行ってきました。また、GIGA スクール構想が進み、タブレットを通級指導教室の中にどのように取り入れていくかを模索してきた年でもあります。

静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会では、これまで、毎年3回の定例研修会をはじめとして、様々な研修会を企画、運営してきました。今年度は第50回東海四県言語・聴覚・発達障害児教育研究大会静岡大会が実施され、第2回定例研究会と兼ねて開催されました。定例研修会、東海四県研究大会共に、今年度も、ZoomやYouTubeを利用した講演会、分科会の実施となりました。

しかし、地区での研修会は、オンラインでの研修会だけでなく、感染対策をした対面での研修会の実施も増えてきました。現状に合わせながら、有意義な研修会を実施したいという会員の思いが、今年度も継続しています。

2022年12月には、FIFAワールドカップ カタール大会が開催されました。日本より上位のランキングの国に対して挑んでいったサッカー日本代表の選手たちに大きな力をもらいました。私たち通級指導教室担当も、更に専門性を高め、よりよい指導ができるよう研修を続けていきたいと思います。

最後になりますが、講師の皆様、実践報告してくださった先生方、研修会の運営を行ってくださった先生方、協力してくださった方々、会員の皆様に感謝いた します。

今後も子供たちのために、静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会の歩みを止めずに、前へと進んでいけますようご協力ください。

研究部 井口 亜由美、白井 有希乃、増井 幸代、南谷 由香

